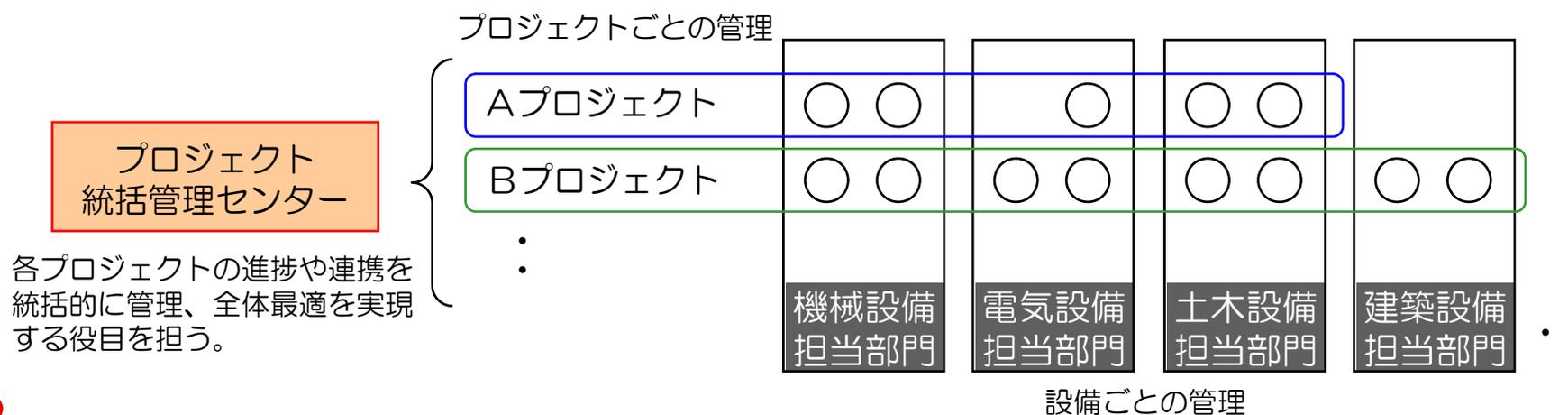


福島第一廃炉推進カンパニーの 取り組み状況について

平成26年7月10日
東京電力株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

1-1. プロジェクトマネジメントの強化

- 廃炉作業において発生する多種多様な課題に柔軟に対応するため、課題ごとにプロジェクト体制を構築して解決にあたる。
- 専門分野に応じた設備ごとの管理に加えて、設備担当を横断してプロジェクトごとの管理を行うマネジメント体制で迅速に対応する。
- 現在、5つの分野（汚染水対策、プール燃料取り出し、冷却・デブリ燃料取り出し、廃棄物対策、インフラ整備）で、15のプロジェクトを発足。
- プロジェクトごとに責任者（プロジェクトマネージャー）を任命し、プロジェクトの具体的な実行計画を作成し、実行まで一環して管理する。
- さらに、各プロジェクトの進捗や連携を統括的に管理し、全体最適を実現するため、「プロジェクト統括管理センター」を設置。



1-2. プロジェクト一覧

プロジェクト区分	プロジェクト名
汚染水対策関係	汚染状況調査プロジェクト
	汚染水抜本対策プロジェクト
	タンク対策・タンク建設プロジェクト
	タンク対策・運用設備建設プロジェクト
	汚染水浄化プロジェクト
	建屋止水プロジェクト
プール燃料取り出し関係	4号機プール燃料取り出しプロジェクト
	3号機プール燃料取り出しプロジェクト
	2号機プール燃料取り出しプロジェクト
	1号機プール燃料取り出しプロジェクト
冷却・格納容器内調査 ・デブリ燃料取り出し関係	デブリ取り出しプロジェクト
	冷却プロジェクト
廃棄物対策関係	廃棄物対策全体コンセプト検討プロジェクト
	廃棄物対策実施プロジェクト
インフラ整備関係	インフラ整備プロジェクト

- 社外から招聘したバイスプレジデント3名が豊富な専門的知識と経験を活かし、プロジェクトの管理状況を担当区分ごとに総括。
- プロジェクト管理会議を定期的に開催し、プロジェクト間にまたがる課題を含めて、プロジェクトの実施計画、計画の進捗状況、プロジェクトの成果をレビューする。
- また、プロジェクト管理会議の中で、各プロジェクトの活動状況を定期的に福島第一廃炉推進カンパニー経営層に報告し、指示や承認を受ける。
- 課題の発生や解消に応じて、プロジェクトの新規立ち上げ・解消を行う。

1-3. プロジェクト取り組みの例

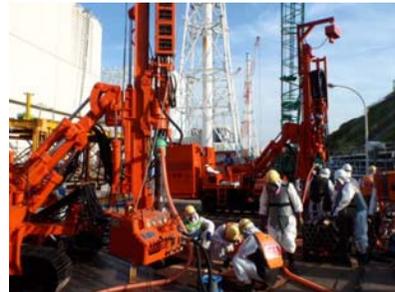
- 各プロジェクトのもとで、凍土方式の遮水壁設置、タンクエリアでの浸透防止、護岸エリアのフェーシング（舗装）などの工事を実施中。
- 様々な作業が並行して進められる廃炉作業において、プロジェクト体制を取り入れたことで一元的な管理ができるようになった。
- また、定期的なプロジェクト管理会議において、経営層を交えた課題共有がなされるようになり、課題に対する様々な解決策が経営層、各部門から出されるようになった。

■ 汚染水抜本対策プロジェクト（凍土遮水壁設置工事）

実証試験の状況



凍結管設置工事の状況



■ インフラ整備プロジェクト（護岸エリアのフェーシング）

3・4号機間海側 作業前



作業後



■ タンク対策・運用設備建設プロジェクト（タンクエリアでの浸透防止工事）

Eエリア 作業前



作業後



H4エリア 作業前



作業後



2-1. 労働環境改善に向けた取り組み事例

【新事務棟】

- 構造：鉄骨造、2階建
- 面積：約14,500m²
- 収容人数：約1,000人
- 完成時期：Ⅰ期工事平成26年6月末
Ⅱ期工事平成26年9月末
(予定)



完成イメージ

【構外仮設休憩所】

- 収容人数：約1,000名
- 延床面積：約1,000m²×2棟
- 運用開始：平成26年4月より
運用開始



【福島給食センター】

- 建設地：福島県双葉郡大熊町
大字大川原字南平
- 構造種別：鉄骨造・2階建
- 延床面積：約3,500m²
- 提供食数：約3,000食
- 完成時期：平成26年度末（予定）



完成イメージ

2-2. 労働環境改善に向けた取り組み事例

＜随意契約の採用状況＞

- 40年にわたる廃炉作業を着実に進めるためには、地元企業をはじめとする協力企業の方々に長期的に働いていただける環境を整えることが重要と認識。
- 物理的な環境整備に加え、長期にわたり安定的な雇用が確保できるよう、随意契約を積極的に採用。長期的な要員確保が可能になることで、より計画的な要員配置や人材育成が可能。
- 現在、福島第一の発注の約9割で、随意契約を適用。
- 高線量作業と低線量作業を組み合わせた仕事の発注など、契約のあり方の見直しも検討中。